



▲「顔出し」＝「品質保証」という理念のもと、責任感の強いスタッフが長岡を支えます。

医療で地域貢献

まちの元気を医療で支える！

エールホームクリニック



◀同院のロゴを使用した壁時計が印象的な待合スペース。

「新しい医療のカタチ」とは

「医療システムの改革」と聞いて

感じますが、例えば会社を休むこと

なく病院にかかれたら？ かかりつけ

の先生が不在でも、自分の症状を理

解してくれる医院があるとしたらど

うでしょう。「医療システムの改革と

は、患者さんが病院のシステムに合

わせるのではなく、医療が患者さん

に寄り添うこと」と渋谷先生は語り

ます。続けて「医療スタッフのポダ

レス化とは、主治医制ではなく、か

りつけのクリニックすべての先生、ス

タッフ全員がひとりの患者さんを見

るというイメージです。その想いは

「同じ志のもとに集まった仲間たち

が結晶のようにひとつとなり、ア

メーバのように持続性のある医療を

提供すること」をイメージされ作ら

れたロゴにも反映されています。志

の高いスタッフが集まり、今までにな

かった医療システムで患者を支える。

現在、内科・リウマチ科だけの同院ですが、4/14(水)より、診療時間も19時まで延長となり、小児科・皮膚科・アレルギー科がスタート

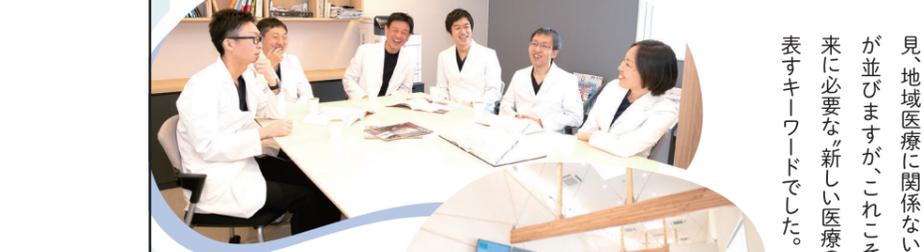
4/14(水)に小児科・皮膚科・アレルギー科がスタート

「医療システムの改革」と聞いて感じますが、例えば会社を休むことなく病院にかかれたら？ かかりつけの先生が不在でも、自分の症状を理解してくれる医院があるとしたらどうでしょう。「医療システムの改革とは、患者さんが病院のシステムに合わせるのではなく、医療が患者さんに寄り添うこと」と渋谷先生は語ります。続けて「医療スタッフのポダレス化とは、主治医制ではなく、かかりつけのクリニックすべての先生、スタッフ全員がひとりの患者さんを見るというイメージです。その想いは「同じ志のもとに集まった仲間たちが結晶のようにひとつとなり、アメーバのように持続性のある医療を提供すること」をイメージされ作られたロゴにも反映されています。志の高いスタッフが集まり、今までになかった医療システムで患者を支える。これこそ医師不足の長岡に必要な仕組みなのかもしれません。

「医師不足は、医師の数が問題じゃないんです」と、一瞬耳を疑うような言葉を発したのは、エール

医師の充足度を計る「医師偏在指標」※が全国で最下位になった新潟県。長岡市は新潟県のなかでも、さらに深刻な医療提供状態です。今回は、医師不足の問題を抱える長岡で、新しい医療のカタチを実現するため立ち上げた「エールホームクリニック」渋谷理事長にお話しを伺いました。

※2019年より用いられている「医師偏在指標」は、住民の年齢や性別から導き出される受診率、医師の年齢などから推定される労働量などを加味して充足状況を数値で示す指標です。



▲県内外から集まった熱い思いを持つ医師たち。

▶天窓から柔らかな光が降り注ぐ待合スペース。



医療ビットバレー MEDICAL BIT VALLEY

▲人と人との信頼で成り立つ同院の特色を「人」のモチーフで表したロゴマーク。



お話を伺った渋谷 裕之 理事長

●内科医師
●新潟県長岡市生まれ
●弘前大学医学部 卒業
米沢市立病院、秋田厚生医療センターなどを経て長岡赤十字病院で総合診療医として研鑽を積む。元長岡赤十字病院総合診療科副部長。2020年4月 医療法人メディカルビットバレーを設立。

教えてドクター！ 特別編

※教えてドクターへの質問はP13の読者プレゼントのご意見・ご要望欄からお寄せください。

アレルギー科

Q 急に体がかゆくなり、ミズばれのようにになりましたがアレルギーでしょうか？

A 恐らくじんましんと考えられるこの症状は、急に体のかゆみと「ミズばれ」といわれる腫れぼったい赤み(膨疹)が出現します。じんましのうちの約7割は原因不明の特発性といわれる一方、食物や薬のアレルギーでじんましんが出る場合、重症になるとアナフィラキシーショックを発症し、命にかかわることもあります。詳しい検査で原因を明らかにして、治療とともに生活指導も必要です。

ポイント! 命にかかわる症状かどうかの見極めが大切。まずは問診や検査で確認を。

リウマチ科

Q 人間ドックでリウマトイド因子(RF)が陽性でした。関節リウマチでしょうか？

A 確かに7~8割の人はRFが陽性となりますが、血液検査のみで関節リウマチは診断できません。関節の腫れや痛み、こわばりなどの症状があって初めて疑われます。一方、RFは関節リウマチ以外の病気(肝疾患、シェーグレン症候群などの膠原病)で高値となったり、健康な人でも陽性となる場合も。気になる症状があれば、検査や診察を受けることをおすすめします。

ポイント! リウマトイド因子(RF)が陽性だけで判断せず、詳しい検査が大切です。

皮膚科

Q アトピー性皮膚炎について教えてください。

A アトピー性皮膚炎は、アレルギーを起こしやすい体質と皮膚のバリア機能が弱い体質をもとにして起きる湿疹の病気です。治療の基本は皮膚への刺激をさける、うるおいを保つなどのスキンケアです。しかし湿疹が強い時期には適切にステロイド外用を行う必要があります。最近はステロイド以外の塗り薬や新規の注射薬も登場し、治療の幅が広がりました。

ポイント! 日常のスキンケアと皮膚の状態にあった適切な治療が改善の鍵。

小児科

Q こどもの便が硬くて出にくいが続きます。

A 排便のたびに痛み、便も小さくコロコロ。更に2日に1回未満の排便の場合は便秘の可能性があります。子どもの便秘は珍しくありませんが、放置しておくと便が石のように硬くなります。また、排便が辛くなり、トイレに行きたがらなくなることもあります。状況を把握するため、必要に応じてレントゲンやエコー検査(超音波)を行い、便のつまり具合を確認します。

ポイント! 子どもの便秘は放置しないで、すぐ対応を!